# 日本人だけが知らない世界の常識

## 第一話　食文化編（前編）

### はじめに

国によって、ジェスチャー、マナー、常識はまったく違います。海外へ行った時、恥ずかしい思いをしてしまうのは、大抵そうした「文化の差」です。

たとえば、こんな話があります。

### 【グッドのサイン】

ある日本人男性が中東へ旅行に出かけた。

いくつかの国を回り、イランに到着した。イランは親日の国である。すぐに地元の男性と仲良くなり、「うちにご飯を食べに来い」と誘われた。日本人男性は感激して、誘いに応じることにした。

大きな家に招かれると、かわいらしい娘さんが出てきて、料理を出してくれた。どれも美味しいご馳走ばかりだった。すべて娘さんがつくったのだという。彼女は不安そうな顔をし、父親を介して言った。

「味はどうだった？」

英語がしゃべれなかったのだ。

日本人男性は感謝の意思を込めて、親指を突き出し、「ベリー・グッド！」のサインを送った。

すると、突然娘さんは号泣しはじめた。傍にいた父親はそれを見て、立ち上がり、日本人男性をボコボコに殴った。「うちの娘に何をするんだ！」と叫んで首根っこをつかんで外に追い出したのだ。

何が起きたのか。日本人男性は鼻血を押さえながら宿に帰り、オーナーに事情を話した。すると、オーナーは大笑いして言った。

「欧米でグッドのサインは、この国じゃ『おまえのケツに指を突っ込んでやる』という最悪の侮辱表現なんだよ。殴られて済んだだけでよかったよ。下手すりゃ、銃で頭を撃たれているぞ」

日本人男性は、現地のジェスチャーを知らなかったばかりに、殴る蹴るの暴行を受けてしまったのだった。

欧米でも日本でも、当たり前のようにつかっているグッドのサインが、まさか「肛門に指

をぶち込んでやる」という意味になるとは……。
でも、こうした文化の違いは、なかなかわかりませんよね。しかし、何気ない仕草が両者の関係を引き裂いたり、取り返しのつかない誤解を生んでしまったりすることがあります。それが異文化交流の恐ろしさであり、楽しさでもあるのです。
この連載で見ていくのは、そうした文化の違いです。日本と海外とでは、どれだけ常識が違ってくるのか。日本人はどんな失敗を犯しているのか。
この連載では、あまり知らないけど、やってしまったら大問題に発展する常識・非常識について見ていきたいと思います。

【ゲップ】
日本からツアーの一行が、フランスへ行った。パリのいろんなレストランでご馳走を食べるという趣旨のツアーだった。
最初に、一行は移民街を訪れた。イスラームの国からやってきた人たちがたくさん暮らしている通りだ。一行はその中にある、レストランへ入った。中では、中東の料理がたくさん出てきた。どれも、とても美味しいものばかりだった。
日本人たちはどうにか食べ終え、周りを見回した。すると、他のお客さんたちは膨らんだお腹をさすりながら、ゲップをしている。あっちこっちで、「ゲップ、ゲップ」とやっているのだ。
ツアーガイドが言った。
「食事が気に入ったら、ゲップをするんですよ。ここじゃ、美味しいと感じたら、満足の証にゲップをすることになっているんです」
ツアー客たちは、なるほど、これが文化の違いなのか、と感心して思う存分ゲップをすることにした。
夜になり、今度はホテルに入っている高級フランス料理屋に行った。リゾットに、鴨のロースト、それにケーキなどのご馳走が出てきた。食後、ツアー客たちは大喜びで、満足の証としてゲップを連発した。ブラボーとばかりに、ゲップ、ゲップ、とやったのである。
すると、周りにいたお客さんが嫌な顔をして席を離れていく。一体どういうことなのだろう。少しすると、ガイドが蒼白になって飛んできた。
「ここでゲップをしないでください！　失礼ですよ」
ツアー客たちは怒った。昼間は、ゲップが満足の証だからしろと言ったじゃないか、と。
すると、ガイドは答えた。
「それは中東の習慣なんです。中東では満足を示すためにゲップをします。しかし、フランスの礼儀では、ゲップはオナラをするよりもひどいのです」
そう、一つの国でも、パリ中心部と移民街とでは、まったく礼儀作法が違ったのだ。

欧米では、ゲップはかなり失礼なことだと言われています。オナラより、ずっと無礼なことなのです。

一方、アジアは逆ですよね。オナラの方が悪くて、ゲップの方がまだマシという価値観です。欧米のレストランでゲップをするということは、オナラを思い切りするような印象を与えてしまうのです。

これが中東になると、まったく異なってきます。中東ではゲップは「満足」の証。だから、遠慮なくゲップをします。イランのレストランなんかに行くと、清楚な女性たちがスカーフを被りながら「ゲップ、ゲップ」と堂々とやっている光景に出くわしたりします。最初見た時は、さすがに目を丸くしてしまいましたね。イラン版の不良娘か、と思ってしまいました。しかし、文化に慣れてくると、これが食後のマナーであることに気づかされるのです。

食事中の文化の違いをもう一つあげると、ご飯を残すかどうかということでしょう。

アメリカでは、パーティーなどでご飯が残ると、バッグに入れて持ち帰るのが礼儀です。「おいしくて残して去るのがもったいないので、余った分は家で食べます」とアピールしなければならないのです。ハリウッド映画なんかでも、ピザを包んで持ち帰ったりしていますよね。この持ち帰り専用バッグは「ドギーバッグ（Doggy Bag）」と呼ばれています。

日本では基本的に食事を残すことは失礼に当たるとされています。ご家庭の中には、米粒一つでも残すと失礼に当たると教えられた所もあるのではないでしょうか。全部平らげて「おいしかったです。満足です」と言うのが礼儀なのです。だからと言っては何ですが、日本の料理は腹八分目の少量ですよね。お客さんがみんな食べ切れるようにしているのでしょう。

ところが、中東の人々は、これとは正反対の習慣を持っています。中東でパーティーやレストランへ行くと、食べ切れないほどの量が出されます。現地の人々はこれを初めから全部平らげようとはしません。食べられる分だけ食べて、あとは残すべきだと考えられているのです。全部食べてしまうのは「足りなかった」というアピールを意味して、大変失礼なことに当たるのです。

中国や東南アジアなんかでも似たような習慣があります。パーティーに招かれた時などは、わざわざ少しだけ残しておくのがエチケットです。そうしないと、あとから「足りなかった？ごめんね」なんて言われてしまうこともあるのです。

私自身これを知らずに苦労をしたことがあります。中東の片隅にあるヨルダンのレストランで頑張ってご飯をすべて平らげたら、主人がムキになってお代わりを次から次にもってきたのです。そこではまったく英語が通じず、「ストップ」「ソーリー」と言っても通じません。カバブやらパンやらが、次々に運ばれてくるのです。こちらも、申し訳なくて食べつづけていたら、ついに吐き気を催し、トイレに駆け込んでしまいました。

国の食習慣を知らなければ、周囲の人々を不愉快にさせるばかりか、自分まで苦しむ羽目になることがあります。事前にしっかりと勉強していくようにしましょう。

【ＫＦＣでの礼儀】

日本人大学生カップルが、タイへ旅行に行った。二人は三週間ビーチで遊んだ後、首都バンコクにもどってきた。毎日辛いタイカレーばかり食べていたので、さすがに食べ慣れている食事がほしくなった。

そんな時、ふと町の一角にケンタッキーフライドチキンがあるのを見つけた。二人は喜んで入り、店の真ん中でフライドチキンを両手で握って食べはじめた。日本の店と同じ味が、とても懐かしく感じる。

しかし、ふと気がつくと、隣にすわっていた家族連れが自分たちのことを見て笑っていた。馬鹿にしているような笑みである。なぜなのだろう。日本人女性が不思議に思って尋ねた。

「私たち、何か変ですか？　そうでなければ、食べている最中に笑うのは失礼ですよ」

すると、タイの家族が言った。

「あなたがたが手づかみで食べていたので驚いたのです。外人さんって礼儀を知らないんですね」

あたりを見回してみると、タイ人たちはみなフォークとナイフをつかって、フライドチキンを食べている。

タイ人はつづけた。

「手づかみで食べるなんて、飢えている人みたいだわ。ちゃんとしたレストランなんだから、礼儀を正して食べて下さい」

日本人カップルは、フライドチキンが気軽なファーストフードではなく、「ちゃんとしたレストラン」の部類に入ることを初めて知った。

たしかに、屋台などに比べると、かなり値段が高い。三倍ぐらいの料金はするだろう。当然、お客さんにもお金を持っていそうな上品な人がいる。

日本人カップルはそうしたことを知らずに、日本と同じ感覚で大声でしゃべりながら、手づかみで食べていたのだ。

日本やアメリカ、あるいは欧州では、ファーストフードは安い食べ物です。若い人たちがお手軽な値段で満腹になれる場所なのです。

一方、発展途上国では、ファーストフードは外資系企業が経営する中級レストランという位置づけであることがあります。マクドナルド、スターバックスカフェ、ピザハットなど、いずれも、食堂や屋台の料理の二、三倍の料金設定であることが多いのです。そのため、お客さんもお金持ちが多く、礼儀を重んじる人も少なくありません。

タイにおけるケンタッキーもそれに近いものがあります。高級レストランではありませんが、中級ぐらいの価格と言えるでしょう。たとえば、屋台での一食は百五十円ぐらいですが、ケンタッキーでセットを頼んだら四、五百円します。現地の物価と照らし合わせると、結構なお値段ですよね。

また、タイではチキンにたっぷりとチリソースをつける習慣があります。なので、手づか

みではなかなか食べにくい。そうしたことから、みんな、フォークとナイフをつかってきちんと切り分けて食べるのです。手づかみで食べていると、そうした「礼儀」を知らない人なのだと思われてしまうことがあります。

これ以外でも、食の作法の違いは、国によってまったく違いますよね。外国人にしてみれば、日本人が麺をすすって食べたり、どんぶりを持ち上げて食べたりすることが、驚きのようです。あとは、飲み物を飲む時に発する音ですよね。

以前、ある外国人が日本にやってきてテレビCMを見た時、絶句したそうです。彼は目を真ん丸くしてこう言いました。

「飲み物のCMで、飲む音がゴクゴクと聞こえた。日本じゃ、こうするのが当然なのか」

欧米では、何かを飲む時に音を立てるのが失礼なこととされています。しかし、日本ではCMなどでゴクゴクと音を立てるのは「おいしさ」をアピールするための方法ですよね。その外国人はそれが理解できずに驚いたということです。

ただ、私も海外でCMを見て不愉快に思ったシーンがあります。インドだったか、ネパールだったかにいた時、食べ物のCMの最後に登場人物がそろってゲップをしたのです。先ほど書いたように「満足」を示すためなのでしょうが、その音と演技にとても現実感があり、非常に不愉快な気持ちになりました。

食の作法の違いが、食べる時だけでなく、CMなどにも現れるのは面白いですよね。

**【レストランの骨】**

**日本人ビジネスマンが中国へ出張に出かけた。現地で何カ月か暮らさなくてはならなくなった。**

**彼は現地に慣れることも大切だろうと、庶民向けのレストランに入った。すると、中国人たちは狭い店内で肉にしゃぶりつき、骨を床に放り投げていく。中には、皿のあまりものを床に捨てる者までいた。**

**日本人ビジネスマンはびっくりした。聞きしに勝る中国人の礼儀の悪さだと思った。彼は少しでも店の迷惑にならぬようにと、自分が食べた骨はお皿の横に分けていた。**

**すると、店の主人がそれを見て怒りだした。**

**「骨や余りものを皿の上に置くな。床に投げ捨てろ！」**

**日本人ビジネスマンは答えた。**

**「私はあなたが後片付けをするのが面倒だと思ってこうしたんです。なぜ怒られなければならないのでしょう」**

**「馬鹿言うな！　ここらへんじゃ、床にゴミが散乱しているのが、『人気のある店』の証なんだ。客がたくさん来ている証拠なんだよ。だから、わざと散らかさなきゃならないんだ」**

中国人の礼儀の悪さは有名ですね。北京五輪や上海万博の時に、当局がかなり改善しよう

としたのですが、まだまだ長年培われてきた習慣は変えられずにいるようです。
私も学生の時に初めて訪れた時は衝撃でした。レストランの床にスープを捨てるわ、唾は吐くわ、煙草は投げるわ、拾いに来た猫は足蹴にするわ……どうなっているんだと思った記憶があります。
しかし、現地の人にとっては、それがいい意味に作用することもあるのです。床が散らかっていればいるほど繁盛している証拠になるというのは、まさしくそうしたものでしょう。日本のパチンコ屋さんが繁盛している証に、わざわざ玉の入った箱を入り口の前につみ重ねたりするのと同じようなものなのかもしれません。冷静に考えれば、他のお客さんが歩く時の迷惑だし、雑多な印象を与えてしまいます。パチンコに興味のない私なんて近づきたいとも思いません。しかし、パチンコ好きの人にとっては、店が混雑し、煙草の煙がモクモクとたち込め、当たりの球が山積みになっていることが、人気店の証になるのです。
ちなみに、中国人とレストランへ行く時には、支払いの際に注意してくださいね。中国では食事に招いた人が全額支払うのが習慣なのです。割り勘なんて言おうものなら、「なんてケチで失礼な奴なんだ」と思われてしまうことがあります。誘ったら、自分で支払うようにしましょう。
また、食事に誘われておごってもらったあとはどうするかご存知ですか？　次は、おごられた人が食事に誘っておごり返すのが礼儀なのです。「おごってもらった。ラッキー。得したな」と思ってそのままにしていると、これまた恩知らずだとか、ケチだとか思われてしまうことがあります。
おごられたら、おごり返す。これが鉄則です。中国へ行く時は、そのことを忘れないようにして下さい。（了）